

伊勢山桜

伊勢山皇大神宮勢

『伊勢山桜』

待ちわびた春の訪れ。伊勢山の丘は、一年で最も華やいだ姿を見せる。令和二年も三月十二日には、大注連柱のソメイヨシノが蕾を綻ばせ、早くも桜の季節の幕開けとなった。神域を彩る桜の花は、伊勢山皇大神宮の象徴であり、神社の紋章「神紋」として用いられている。

当宮の桜については、横浜市の正史『横浜市史稿』の『風俗編』（昭和六年刊）に詳しく記されている。「此頃（※明治三年の創建時）に植栽した櫻樹は、やがて花季には紅雲の幕を張り、遠国から入港する船舶は、伊勢山の花に浮く社前の大鳥居と共に、これを望見し、懐しの丘に接することは楽しみの一つとして居た。明治末年頃まで、花は丘を埋め、遊人



風ふけば
幼なき吾子を
玉ゆらに
明るくへだつ
桜ふぶきは
上皇后陛下御歌

創建 150 年記念事業
「植樹」野毛山公園



記念碑清祓式



野毛山公園事前工事

(※物見遊山の人々)は四時(※四季)を通じて来遊し、港を眺望する風勝の地として、外國人にまで其名を評判されて居たのであつた。近時花樹は減少したけれども、宮居(※神社)近くに捨て難い花の風情を浮べて、港の町々を見下して居る。誠に此丘の此宮居は、市民の思想を支配し、信仰の的となり、當時の風俗乃至行事を想はするものであつた。而して國民性の象徴である櫻花と共に、遊山場所として横濱の南北をつなぐ中央部に、宮柱太しく建たせ給ひ、鎮護の丘となつて居るのである。」

明治期の伊勢山の丘は、神域のみならず、参道また紅葉坂も桜並木が続き、横濱有数の桜の名所であつたという。

當時は、港に臨む横濱の中心部、そして横濱停車場(現・桜木町駅)より走り出す陸蒸氣の車窓から



見上げれば、そこに必ず伊勢山の丘がそびえていた。麗らかな春の日、仰ぎ見た伊勢山には、桜花が華やかに咲き誇り、その中へまるで神威を現わすかのように、威風堂々と大鳥居が浮かび上がる。それは、ただ市民の目を楽しませるだけではなく、横濱の総鎮守として、また象徴として、人々の心の拠り所となるに相応しい威容であつた。

残念ながら関東大震災によって、参道や紅葉坂の桜並木は失われ、境内の桜もその数を減らした。春の華やかさは往時に劣ることだろう。しかしながら、伊勢山の丘が宿すその本質は、今も何ら変わることはないのである。

さて、この令和二年の伊勢山皇大神宮創建一五〇年にあたり、その奉祝記念事業の一つとして、神域をはじめ市内の各所で、当宮の象徴たる桜の植樹が

創建150年記念事業
「植樹」野毛山公園



野毛山公園に植樹されたソメイヨシノ



集合写真

創建150年記念事業
「植樹」野毛山公園



植樹式



植樹奉告祭

行われる事となった。

五月の神輿渡御や流鏑馬をはじめ、他の記念事業は延期となったが、植樹については、奇しくも境内の桜が花開いた三月十二日に、神前で記念植樹奉告祭が奉仕され、引き続き野毛山公園において植樹式が執り行われた。この後も、伊勢山下の本町小学校、横浜港の始まりの地である象の鼻パークで、記念植樹が進められる。

これらの若木たちが、やがて大樹となり、満開の花を咲かせるとき、見上げる人々は伊勢山の大神と神縁を結び、風に流れ舞い飛ぶその花弁は、横浜の隅々までをまばゆい神威で満たすことだろう。

創建 150 年記念事業
「植樹」野毛山公園



現在と過去 伊勢山皇大神宮表参道

『桜』Photo



#伊勢山皇大神宮
#横浜総鎮守



伊勢山皇大神宮創建 150 年記念事業について

当宮の創建 150 年記念奉祝事業を本年に実施出来るよう計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、皆様方の安全と健康を第一に考慮し、延期とさせて頂く事となりました。

延期先の日程が決まり次第、ホームページ等で御案内させて頂きますので、御承知置き頂きますようお願い申し上げます。

早期に新型コロナウイルスが終息を迎え、創建 150 年記念奉祝事業を通して皆様と共に御祝出来ることを願っております。

延期になった伊勢山皇大神宮創建 150 年奉祝事業

「創建 150 年記念大祭」



神社の大前で祭典を斎行致します

「創建 150 年奉祝祭」



神社に於いて奉納行事を行います

「献茶式」



武者小路千家・宗徧流四方庵

「植樹祭」



象の鼻パーク等



「流鏝馬」

みなとみらいで開催致します

「神輿渡御」



神社～みなとみらい